

## 平成29年度 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 会議概要

■日 時 平成29年7月14日（金） 午前10：00～正午

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者（敬称略）

委員：林 大樹、秋山 滋雄、岡本 和子、長谷川 浩司、関 克巳、長崎 進、  
内田 浩、永沢 映、鵜沢 哲雄、杉本 孝一郎、笹渕 敏子

頼高英雄市長

事務局：佐藤 慎也（総務部長）、根津 賢治（総務部次長兼政策企画室長）  
田熊 純也（政策企画室長補佐）、吉田 圭介（政策企画室主査）  
白井 敦（政策企画室主事）

■次 第

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 議題

（1）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について

（2）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び地方創生加速化交付金の検証について

（3）その他

4. 閉会

■内 容

【市長あいさつ】

【議題】

（1）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について

事務局から、蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状及び転出者アンケートの概要について説明した。（資料3・4参照）

その後、次のとおり各委員からの意見・質問等をいただいた。

委 員：子育て世代の転出をより食い止めていくことや若い世代を増やしていくことがこれからのまちづくりに大切だと思う。少子高齢化の世の中になっていくので、若者に転入してもらえるまちづくりのためにも、安全・安心なまち、また教育に力を入れることも大切になっていくと思う。

委 員：女性の平均寿命が延びている。延びていることはいいことだが、その中で医療費の増大や寝たきり老人の増加も課題となっていると思う。

また、各団体の活動としても後継者不足が課題となっているところも多いのではと思う。様々な活動団体の存続が難しくなっていくのではと危惧している。

交通の利便性については、錦町がバスについて不便に感じるところがある。ぷらっと蕨のルートの再検討で交通の利便性が高まると良いと思う。

委員：犯罪については、特に大型店は顔認証システムを搭載した防犯カメラの設置や警備員の増員をしても、巧妙化する犯罪を防ぎ切れておらず、外国人による組織的な万引き（窃盗）が多発し被害額も増えていると聞いている。

委員：蕨は成熟した市であると感じている。

マンションが増えると人口も増えるが、施策により人口を継続的に増やしていくことは非常に難しいことであると思う。

子育て世代に対する施策についても、他市との競争の面もあるので必ずしも決定的な要因とはならないと考えている。

一方、わらびりんごサイダーや双子織などソフト面の強化をすることで他市との差別化が可能となり、蕨の話題性を作り、関心を持ってもらうことで、蕨に来てもらうということも考えられると思う。また、インターネットを使ったソフト面の施策展開をしていくと良いと思う。

委員：人口増イコールすばらしいという考えが正しいのかということも考える必要があると思う。たとえば、大型マンションの建築により人口が増えたとして、それが10年続けてマンションが建ち続けるかというところとは限らない。また、大型マンションが増えたまちが良いまちとも限らない。

蕨市については、東京に近いということもあるので一定程度の人口維持はできるのではと考えているが、人口構成としては高齢者の割合は増えていくと予測される中で、蕨としてのまちのデザインをしていくことが必要になると考えている。

たとえば、埼玉県ではシニア活躍推進課を作り、高齢者がどう生き生きと暮らせる社会を作れるかという取り組みを進めている。

また、シルバー人材センターではどちらかというと、肉体労働系の仕事が多かったが、クリエイティブな仕事を提供する仕組みを作っていくという取り組みもある。

蕨市としても人口を増やしていくなかで、高齢社会をどう豊かに過ごせるかという視点があるといいと思う。

委員：転入者の転入理由を知るために、市を選ぶ要因の分析を経済的な観点とコミュニティの観点からできればいいと考えている。

転入の要件としては、賃料や住宅取得費用が比較的安いことが要因となっていると考えられるので、マーケットとしてコミュニティの魅力感を把握することが必要になると思う。

また、交通の利便性がいいとあるが、道が狭く、見通しの悪いところがあることや自転車の往来が激しいため、その対策をとれるとよい。

事務局：転入者の転入理由については、推測であるが、転出者アンケートと大きく差はないのではないかと考えている。

転入超過という点では、東京都北部からの転入超過が見られるので、住宅取得費用が低く抑えられることなどが要因と考えている。

委員：子育て世代への取り組みも非常に重要になってくると思うが、高齢者が多くなっていることもあるので、高齢化への対策も考えていくことも重要であると思う。今後も、死亡率を低くして健康でいられるための健康プログラムを進めていくことで医療費の削減にもつながると思う。

委員：外国人が増えていると実感している。単身アパートが増えていることも要因であると思う。また、資料の市の総人口の中には、外国人も含んだものかの確認をしたい。

事務局：平成24年に法改正があり、そこからは住民基本台帳の中に外国人人口を含んだものとなっている。

委員：人口ビジョンを見ると中国人とベトナム人など外国人が合わせて800人程度が単年度で増えている現状がある。学校のクラスの中にも外国籍の子どもがいる。社会増として外国人が増えているので、今後どういう施策を行っていくか考えていく必要があると思う。

蕨市に転入した単身者がさいたま市や川口市に転出していかないような施策もできると良いと思う。

委員：外国人が多く住むということは、蕨市はとても便利なまちということを証明しているのではないかと思う。

蕨市は地価が高いので土地を取得しにくいところだと思う。

そのため、蕨市の住宅状況として40坪程度の土地を相続等で売ると、20坪ずつの切り売りになるようなケースがみられるので、防災面であまりよくないと考えている。

土地を手放すときにまちづくりを考える業者に委託できる仕組みがあるといいと思う。たとえば、土地の部分を賃借する形で上物だけを購入する仕組みで、土地所有者も固定資産税等で優遇が受けれるようなものがあると住宅が循環していくようになると考えている。大きな話ではあるが、地主に固定資産税や相続税を還元できるとWIN-WINになると思う。また、高齢化も進んでいることから地域包括ケアシステムの構築

も進めて、自宅で看取りができるようなまちにしていくといいと思う。

事務局：土地を売らないと相続税が払えない方も中にはいると思われる。

条例だけの範囲ではなく、地方税法などの法律にも関わってくる。法律の枠組みでどういったことができるのか相続の関係や住宅の需給バランスなど研究する課題が多くあると思われる。

委員：駅前通りに一般住宅が増えていることで、機まつりが縮小しているように思える。市が補助することで活性化できないか。

事務局：現状、観光協会に機まつり・宿場まつり等の運営資金の一部を委託料として1,250万円支出をしている。

## (2) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び地方創生加速化交付金の検証について

事務局から、蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び地方創生加速化交付金の検証について説明した。(資料5・6参照)その後、次のとおり各委員からの意見・質問等をいただいた。

委員：防災・防犯の取り組みの成果が犯罪数の減少につながっていると思う。また、防犯カメラの設置についても抑止力としての効果を期待したい。防災訓練を未実施の町会についても進めていきたいと思う。スタンドパイプについては平成28～30年度にかけて全町会に設置完了となるので、初期消火に活用していく。また、避難所運営訓練については小学校等、実際に避難所となる場所で行うことで、より現実に即した訓練となるので今後も進めていきたい。こうした具体的な取り組みを続けて、より安全なまちづくりを進めていきたいと考えている。

委員：アットホームなまちなので住み慣れたところで、最後まで看取りのできる地域にしたいと思う。地域の助け合いがますます盛んになり、若い方と高齢者が一緒になったまちになるといいと思う。

委員：商工会議所では、経済産業省の委託事業の全国展開プロジェクトを実施する予定である。地域資源の発掘や商品化などについて3か年で取り組むものを採択いただいたところである。また、平成29年度から、埼玉県は空き店舗ゼロプロジェクトの有識者会議を立ち上げ、重点的に支援をしていくエリアを4カ所指定することとなった。蕨もエリアに指定され、今年度はビジョンを作成する予定である。企業が倒産し、その場所に住宅ができる状況に歯止めをかけたいと考えている。土地利用方法も含め、空き店舗を出さないような仕組みができればいいと思う。

委員：数値について、三世代ふれあい家族住宅取得支援事業の予算達成率はどうか。利用のしやすさ等の分析は必要であると考えている。また、認知

症サポーター数の増加がみられるが累計数で相違ないか。

事務局：個人の取得方法により補助する金額が違う為、件数が同じでも予算執行率は異なるので、執行率のみでは分析しにくい。

認知症サポーター数については、累計数である。認知症サポーター養成講座については、近年、商工団体、市民団体等から開催依頼が増えている為、認知症サポーター数は当初の目標を大幅に超えている。

委員：総合戦略に観光的な視点がほとんど入っていないことは、逆に良いことだと思う。蕨らしさを考えると、住民にやさしい、暮らしやすい地域をどうデザインするかということにフォーカスをあてることはよいと思う。そのためには、商店街が買い物しやすいことやコンパクトシティという点でみると顔の見える人間関係などの保持が必要であると思う。また、成年式など文化的なところも含めて蕨というまちのステータスを保持していくことも必要であると思う。地方都市では、大型の書店や映画館が無くなることで文化的傾向・住民意識が落ちていくことがみられる。それは教育的なことにもつながってくると思う。

商店街や住宅のあり方などを考えて、たとえば蕨に必要な施設の誘致をするとか特区をつくるといったことなど、戦略的、政策的に蕨のデザインを考えるといいと思う。人口の増減ではなく、働き方やまちのデザインを考えてプロモーションしていく視点が必要と考える。

また、市民と協働の事業はイベントものが多いので、行政と住民が連携して暮らしを良くする、継続性のあるものも出てくるといいと思う。

委員：駅西口市街地再開発と市庁舎整備については、市の顔として期待をしている。わらび・コンパクトなどの言葉もいいと感じており、大切にしてほしいと思う。イベントという話もあったが、人を呼ぶためには歴女か鉄道かと思う。また、蕨市ガイドブックは非常に良いものだと感じた。これの発展形も期待したいと思う。

委員：蕨市ガイドブックは非常に良いPRになると思う。

外国人が増加している現状がある。インターネット等で検索をすると蕨には外国人が多いことについて、悪いイメージがついていることが見受けられる。外国人がいることがイコール悪いことではないと思うので、どう共存していくのか模索していく必要があると思う。

委員：安全こそまちの最大のセールスポイントであると思う。犯罪件数を減少させる為の施策は続けていってほしい。

また、音楽によるまちづくりや河鍋暁斎美術館のことなど、市内に住んでいても知らなかったこともあり、一般市民に届けきれてないところもあるのではないだろうか。

暮らしさでいうと他の委員が言ったとおり、観光というよりは、暮らしやすさにフォーカスをあてることに賛同したい。

市立図書館は使いやすいとは思いますが、駐車場が手狭だと思う。この地域資源を使いやすいしていくことが教育文化の面でも強みになると思う。

委員：住んでいる人の満足感が上がるとまち全体のブランドがあがると思う。犯罪件数が減少しているのは、小学校からの不審者等の情報メールの件数が減ったので実感している。

#### 【その他】

事務局より、今回頂いた意見を意見書としてとりまとめ、林会長より市長に提出することを説明した。

以上